

看護大学 だより

#16

新しい学び・人・キャンパス
福岡看護大学の魅力を
ご紹介します!



第1期生の旅立ちに向けて

3月11日、春めく佳き日に、福岡看護大学の第1期生107名は卒業の日を迎えました。先輩もいない中、教職員と一緒に大学の新しい歴史を刻んできた第1期生の卒業は、私たち教職員にとって特別なものでした。

今回、インタビューに応じてくれた卒業生の水島 梓さんは九州大学病院へ、古賀七夏さんは福岡大学病院へと、それぞれ入職していきましました。「臨地実習中に、就職を希望する病院で行われている看護の実際を知ることができ、就職後のイメージを掴むことができました。」と二人は語ってくれました。チューター教員やキャリア支援室に支えられ、また友人から情報収集しながら就職試験の準備を進めてきた二人。本学のキャリア支援体制の一環であるプロによる面接指導のおかげで、面接にもしっかりと備えることができたようです。水島さんは「根拠を持って看護を行いたい。患者さんの心に寄り添って、一つ一つ丁寧に行っていきたい。」と、また、古賀さんは「先輩看護師に倣って優先度をつけた的確な看護を行い、患者さんから信頼される看護師になりたい。」と、それぞれ目指す看護師像について話してくれました。

第1期生の旅立ちには寂しくもありますが、4年間ここままでたくましく成長してくれたことを誇らしくも思います。みなさんが医療従事者として成長を続けていけることを、これからも母校から見守っていきたいと思います。(大久保つや子・寒水章納)



短大 VOICES #16

夢を叶える場所
「福岡医療短期大学」
多くの出会い・絆を育てている
短大の情報をお届け!



福岡医療短期大学
歯科衛生学科(講師)
石井 綾子

私は、福岡医療短期大学歯科衛生学科が3年課程となった初年度に入学した7期生です。卒業後は専攻科にて障害者歯科を専攻し、修了後、福岡歯科大学医科歯科総合病院へ就職しました。障害者歯科、総合歯科へ配属され、専攻科での経験をすぐに活かすことができました。平成21年に福岡医療短期大学は文部科学省より特色ある大学教育支援プログラムの対象機関に選定され、その一端を担う職員として介護施設の口腔ケアを行う中で、口腔介護が歯科衛生士の新たな活躍の場となることを実感しました。プログラム終了後、幸いにも短大の専任教員となり、現在に至るまで学生教育に従事しています。これまでの経験から、心身健康科学に興味を持ち、介護職の行う口腔ケア業務が介護職員のところへ及ぼす影響について研究し、他大学大学院にて、学士、修士を取得しました。修士課程では、教員としての仕事や育児との両立で大変なことばかりでしたが、充実した日々だったと感じています。

今後、研究では、歯科衛生学科の学生を対象に心拍変動や唾液等の生理学的指標を用いた研究を計画中です。教育面では、様々なライフステージに対応できる歯科衛生士の養成を目標とし、これからも精進していきたくと考えています。

福岡医療短期大学のコト
がよくわかる
Online Open Campus

